

福島県農地・水環境保全向上対策第三者委員会
第7回委員会 次第

日時 平成22年3月26日（金）
午前10時00分～12時00分
場所 本庁舎3階第総務委員会室

1 開会

2 農林水産部次長あいさつ

3 議事

「活動組織の取り組みの評価」について

4 その他

5 閉会

**福島県農地・水・環境保全向上対策第三者委員会
第7回委員会出席者名簿**

平成22年3月26日（水）

	所 属	職 名	氏 名	備 考
1	福島県農地・水・環境保全向上対策第三者委員会	委 員 長	山川 充夫	
2	”	副委員長	佐藤 和子	
3	”	委 員	佐藤 弘子	
4	”	委 員	塩谷 弘康	
5	”	委 員	田中 亮	
6	”	委 員	羽田 博子	
7	福島県農林水産部	次 長	松浦 幹夫	
8	福島県農林水産部 循環型農業課	課 長	酒井 孝雄	
9	” ”	主任主査	松浦 幹一郎	
10	” ”	主 事	黒須 賢嗣	
11	” 農村環境整備課	課 長	豊田 裕	
12	” ”	主幹兼副課長	浦山 悦雄	
13	” ”	主任主査	佐藤 利勝	
14	” ”	主 査	馬場 岳志	
15	” ”	主 査	平野 晃史	
16	福島県農地・水・環境保全向上対策地域協議会	事務局長	後藤 庸貴	

**福島県農地・水・環境保全向上対策第三者委員会
委員名簿**

[平成22年3月26日現在]

氏名	所属・役職等	備 考
やまかわ みつお 山川 充夫	福島大学学長特別補佐（評価担当） 福島大学経済経営学類教授	（委員長）
さとう かずこ 佐藤 和子	特定非営利活動法人 ふくしまNPOネットワークセンター理事長	（副委員長）
さとう ひろこ 佐藤 弘子	学識経験者（農業） 「いいたて・までいユニット」応援団長	
しおや ひろやす 塩谷 弘康	福島大学行政政策学類長 福島大学行政政策学類教授	
しんし とおる 進士 徹	特定非営利活動法人 あぶくまNSネット代表	今回欠席
たなか りょう 田中 亮	福島県農業会議事務局長	
はねだ ひろこ 羽田 博子	福島県消費者団体連絡協議会会長	

（敬称略、五十音順）

「活動組織の取り組みの評価 中間報告」に関する第6回委員会での論点整理

委員会での意見	対 応	備考
○中間報告では、「成果」面の強調はあったけれども、課題の整理も必要だ。	今回、課題抽出と分析（なぜ数値が低いのか、どうすれば良くなるのか）を行い、また優良事例の検証も併せて、今後の有効な対応策を探り出すべく、整理を行った。	
○全県1本で集約されているけれども、都市周辺とか、条件の違いによる分析も必要では	今回、「基礎分析」において地域条件の違いからくる傾向を把握し、異なった対応策を要する地域条件を探るべく分析を行った。充分ではないが、都市周辺は比較的うまくいっていて、かえって農業条件の良い平地の比較的経営規模の大きい地域の方に課題がある傾向が確認できた。	
○「本対策によって10年先まで機能が確保できる生産資源が大幅に増加した」とあるが、これは「この活動により持続的に手を加えていくこと」ということではないか	ご意見のとおりであり、表現を改めた。	
○女性の参加の部分で、「なぜ高めたいのか」「何をやって貰いたいのか」を明確にしていく必要があるのでは	分析にあたり女性が参画した活動の種類に着目した。その結果、組織の運営（計画づくり、意志決定等）に女性の力が得られれば、対策の効果が高くなる傾向が確認された。 今後の対応を活動組織に呼びかけていく時に、理由と効果を本分析結果とともに説明していきたい。	
○長続きさせていくためには、生産価格等経済と結び付かないといけない。消費者との交流とかそういった点に関する部分も必要では	今回「事例検証」において、消費者交流の実例・効果等を分析した。この事例を組織に紹介し、生産者自らができることを広く普及したい。	
○本対策は目的が幅広くていいが、「生産資源の公共事業」や「担い手」、「環境保全型農業」とかの他の様々な農政と、どこまで地域がやる、どこを公共機関がやるといった点や、総合的によりよき成果を得るための施策のマッチングが今後ますます重要では。	本県農村地域の抱える諸課題に対処するため、本対策による地域の取り組みと、県農林水産部の諸施策をより効果的に組み合わせることには、引き続き全力で取り組んでいきたい。	